〈研究ノート〉

介護実習における最終実習段階までに必要な 能力評価に対するルーブリック評価の導入と妥当性の検証: 介護実習評価指標と介護実習評価の関係

#### 林 和歌子

#### 【要旨】

本論の目的は、これまでに本学介護福祉コースで開発してきた最終実習段階の目標を見通 して各実習段階共通で活用できる、「介護実習評価指標(案)第2版」のルーブリック評価と しての妥当性の検証と改善点を明らかにすることである。

2018 年度に「介護実習I・II・IIIを行った 36 名の「介護実習評価表」と、予め実習評価の採点時に実習学生の評価に該当する評価基準に丸印を付けるように依頼をした「介護実習評価指標第 2 版」を対象とした。検証の結果、一部の評価観点は評価指標と実習評価に有意な相関がみられ、実習学生の能力をどの学生にも同じく測定していることが示された。さらに本評価指標が実習段階によって異なる取り組み課題や学生の個別的な達成度を測定できていることも明らかになった。

キーワード:介護実習、実習評価、ルーブリック

#### 1. 問題の背景

介護福祉教育に代表される社会福祉専門職教育において、実践力向上のために実習教育が担う教育的機能の役割は大きいことは言うまでもない(佐藤 2018,原田ら 2010 など)。加えて実習教育で得た経験が福祉の職業イメージの形成や福祉職への就職志望など、将来のキャリア形成に大きく影響することも指摘されている(米沢 2008,小松ら 2008,占部ら 2012,小松ら 2016 など)。例えば、小松ら(2016)の研究では実習中に利用者と良い関係が築けるなどのポジティブな体験を強く認知しているほど、福祉職への就職意思が高まることを明らかにした。そのうえで実習担当教員が達成できなかった課題を把握し、克服に向けた適切な働きがけの必要性を指摘している。近年の介護人材不足の状況改善のためにも、介護福祉士養成における介護実習の意味は大きい。

しかしその一方、実習を振り返る材料となる実習評価の難しさが、養成校にとって大きな 課題となっている。実習先で行われている支援・援助の内容が対象者の状況に依存している ことや、多岐にわたるスキルの獲得が必要であるため、学習成果の数値化が難しく、明確に学生が実習で身に付けた力を評価することが容易でないことが指摘されている(江原 2014, 工藤 2015, など)。また介護実習では近年の利用者ニーズの重度化と実習生の学習ニーズの多様化などから、指導方法に難しさを訴える実習指導者についての報告もある(福田ら 2018)。このような状況のなか、2018年に「介護福祉士養成課程における教育内容の見直し」が行われ、介護実習の具体的な教育内容のねらいとして「(1) 地域における様々な場において、対象者の生活を理解し、本人や家族とのコミュニケーションや生活支援を行う基礎的能力を習得する学習とする。」、「(2) 本人の望む生活の実現に向けて、多職種との協働の中で、介護過程を実践する能力を養う学習とする。」ことが示された。そこでは教育に含むべき事項として「①介護過程の実践的展開」、「②多職種協働の実践」、「③地域における生活支援の実践」が提示され、「多職種協働」と「地域」が新たな視点として加えられ介護実習に総合的なケアの視点が求められることになった。

また 2019 年 3 月には介護福祉士養成校協会によって「介護実習指導のためのガイドライン」では実習評価の方法と活用法が提示され、養成校側、実習施設側のそれぞれの役割が明記されている。ガイドラインによると「(1) 評価の目的と意義」として、養成校側にとって評価は「学びの尺度」であること、実習施設側にとっては、「実習生が評価を見て振り返ることにより」「応用力や対応力の養成」につながることを理解することが記されている。さらに「(2) 取り組むべき内容、留意点」として、養成校側には実習生が「できたこと」「できなかったこと」を認識できるように指導するために、実習施設側に評価の「観点」「基準」などを積極的に伝え、実習施設との連携を測ることを強調している。実習施設側には「客観的」に「実習生の成長を認める観察力」と実習生の能力を見極める「分析力」が求められ、それらを具体的に「助言」していくことが記されている。そして介護福祉士養成課程のガイドラインとしては初めて養成校側に評価基準の提示例としてルーブリックの紹介が行われた。これに先がけ本学では、2014年より実習指導者に協力を得ながらルーブリックを活用した評価指標の作成のために検討を重ねてきた。

#### 2. 本学の介護実習と「介護実習評価指標(案)第2版」の特徴

大学等でおこなう介護福祉士養成の介護実習は、実習施設を実習「施設・事業等 (I)」「実習施設・事業等 (II)」に区分し、450 時間の実習全体の3分の1以上を、実習施設・事業等 (II) において行うものとされている。実習施設については特別養護老人ホーム等の高齢者関係施設、障害者支援施設の障害者関係施設、知的障害児施設等の児童関係施設、救護施設等のその他と広く規定され、それぞれの実践現場において①介護過程の実践的展開、②多職種協働の実践、③地域における生活支援の実践の3点を含む教育の展開をすることを求めている。

本学では 450 時間の介護実習を、「介護実習II」「介護実習III」と 3 回に分け、それぞれ 1 年次に施設実習 90 時間(2 週間)、2 年次に施設実習 180 時間(4 週間)、3 年次に施設実習 180 時間(4 週間)及び在宅介護実習 16 時間(2 日間)と設定している。実習施設は大学が介護実習契約を行った施設に限られ、基本的に 3 段階とも異なる施設で実習をおこなうよう大学が配属を行っている。また介護実習は「介護実習I」を前提科目として「介護実習II」を、そして「介護実習II」を前提科目として「介護実習III」を履修条件としている。本学では特に施設実習についてはこの積み重ねの状況を踏まえ、「介護実習I」を「実習段階I」、「介護実習II」を「実習段階II」、「介護実習II」を「実習段階II」、「介護実習III」を「実習段階II」、「介護実習III」を「実習段階III」と位置付けている。

また、本学の実習学生の能力は養成校入学前から既に差が出ていることが多い。なぜならば、学生のなかには少なからず家族介護の経験のある者や、高校福祉科等で初任者研修を修了している者がいるからである。したがって介護福祉コースのクラスには介護経験の全くない者と、介護経験者が同時に学んでいる状況が多々生じる。本学では介護実習が複数の施設、種別、及び段階を経て知識、技術の積み重ねを主としていること、入学前の生活や学習経験によって大きく影響することを考慮しつつ、実習学生の能力について介護実習3段階を通して測定するためにルーブリック評価を活用した。このような状況を踏まえ、介護実習最終段階を目指して適切な学修状況を示すとともに、個別の修得能力の状況が可視化できる評価指標の完成を目標としてきた(林ら2017)。

#### 3. 研究の目的

本稿はこれまでに本学介護福祉コースで開発した「介護実習評価指標(案)第2版」を用いて実習評価を実施し、本評価指標のルーブリック評価としての妥当性の検証と改善点を明らかにすることを目的とする。

これまで検討してきた「介護実習評価指標(案)第2版」は限られた実習指導者と実習担当教員で作成してきた。したがって本評価指標を導入するに当たり、実習生が行う全ての出来事が記述されているのか、また実習段階によって取り組むべき内容が異なることから、学びのプロセスが記述と尺度によって適正に設定されているかについて検証を行う必要がある。そこで本研究では、2018年度2、3月に実施した「介護実習I・II・III」において本評価指標の導入を試み、観点ごとの総合評価「介護実習表」との関係を検討し、介護実習最終段階に必要な能力を評価できるルーブリック評価としての妥当性の検証と改善点を検討したい。

#### 4. 研究の方法

#### (1) 調査対象

調査対象は施設の実習指導者が採点をした 2018 年度「介護実習評価表」と予め実習評価の 採点時に、実習学生の評価に該当する評価基準に丸印を付けるよう依頼をした「介護実習評価指標第2版」である。2018 年度に実習評価を受けた実習生は、本学福祉総合学科介護福祉 コースの学生で『介護実習I・II・III』(後期集中・2 又は4単位)を履修した38名で、そのう ち調査に同意を得られなかった施設で実習を行った実習生2名は調査対象から省いた(表1)。 同意の得られた施設の内訳は表2の通りである。

表1 調査対象の介護実習生の内訳

学年	人数
1年	12
2年	10
3年	14
合計	36

表 2 調査対象の施設の内訳

種別	施設数
特別養護老人ホーム	9
認知症対応型通所介護	1
介護老人保健施設	5
障害者支援施設	4
合計	19

#### (2) 分析方法

「介護実習評価表」(表 3) で A~D まで評価された結果と「ルーブリックを用いた介護実習評価指標案 第 2 版」(表 4) に付けられた丸印の度数について、各 16 観点の評価基準ごとに相関分析を行い、全体分析、各段階分析、及び観点毎に検討課題の検討を行う。

なお、本評価指標はそれぞれの観点を次の 3 通りの方法で評価基準を説明している。そこで分析にあたり、便宜的に下記の各方式を用語として使用する。

#### A. ステップ方式

「助言があれば○○できる」「自ら○○できる」等にみられる、一つのパフォーマンスを "どの程度"できるのか表現しているものであり、「助言があれば○○できる」のように 「助言」を必要とするレベルから、率先して「自ら」実践できるレベルへと、階段のステップを踏んでいくように評価基準内容を説明しているものである。したがって、丸印はその内容の評価につき一つが選択されるため、修得能力の「レベル」が上がるに従い高い評価の割合も上昇することが想定される。

#### B. 積み木方式

Aと同様に一つのパフォーマンスを"どの程度"できるのか表現しているもので、「○○

の必要性を理解できる」から「○○(を行動に移すことが)できる」と、前のレベルを 踏襲して次のレベルへと積み木を積み上げていくように評価基準を表現している。この 積み木方式の基準設定では、実習生の該当する習得能力の「レベル」までの多くの評価 基準に丸印が付くことが予測される。

#### C. 具体化方式

評価対象のパフォーマンスの様相を細分化、具体化して表現をしている。例えば「(1) 利用者との関係作りができる」について「話しかける」や「双方向のコミュニケーションができる」といった具体的な行動、態度で表し、説明をしている。したがって実習学生によって差が出ることが想定されるが、概ね丸印の数は評価が高いほど多く付くことが予測される。

# 介護実習評価表

### 介護実習【《段階》】

城西国際大学福祉総合学部福祉総合学科

71192				72		ГΙЩΙΙ	בוטויום		護福			
	学籍番号				学:	生氏	名		F2~	41-		
実習生	« <del>学籍番号</del> »					主氏名	í»					_
<b>₩</b>	施 設 名		施設	長	名	5	実 翟	指	導	者	名	
実習先	«施設»											
実習期間	自(始) 2019年 2月 12日	3 ~ 至	(終)	201	19年	月		日				
	・下記評価項目について、該当する評価A〜Dを 【80点以上)B:良(70点以上80点未満)C:				<del></del>	飼を	要す	る】		_		
	内 容	評価	所	見(』	必要な場合	のみ	二記	<b>入&lt;た</b>	ごさい	١)		備考
利用者	(1)利用者との関係づくりができる											
の理解	(2)個別のニーズの把握ができる											
介護	(1)利用者の個別性及びその人の生活環境に対応した、日常生活に関する介護技術を習得している											
技術	(2)介護設が書ける											
役割と	(1)介護職員の役割がわかる											
1文部 チーム ケア・	(2)自己の役割を自覚して、他の職種と協働できる											
,,	(3) ケースカンファレンス等、多職種協働の実践方法がわかる											実
	(1) 情報の解釈、統合化を行い、ニーズを明確 にすることができる											令習 I で
介護 過程	(2) 長期目標・短期目標を適切に設定し、介護 計画が立てられる											は評価
	(3)介護計画にそって実施し、評価ができる											一しない
社会 関係	(1)施設が地域に果たしている役割がわかる											6,
	(1)守秘義務を理解し、行動がとれる											
-	(2)礼儀を理解し、マナーを守れる											
倫理· 態度	(3)積極性のある行動ができる											
-	(4)協調性のある行動ができる											
	(5)責任感のある行動ができる											
実習指導	者の総合評価(今回の実習で努力が見られた点、また・	今後の課	題などにつ	ひいて	:、できるだ!:	け具体	的にこ	."記入<	くださ	·(1)		
											—	_
	上記の通り評価	むます。	n			平	成	年	Ξ.	月		

# 第2 **※** ルーブリックを用いた介護実習評価指標 表

◎実習生の態度としてあてはまる項目にOをお付けください。(複数選択可)その後、本評価指標に基づき、別紙評価表にA~Dをご記入ください。 ◎評価項目に当てはまるものがない場合は、評価表の所見雛、または総合評価欄をご活用いただきご記入いただきますようお願いいたします。

版

:《学生氏名》 実習生氏名 学籍番号:**《学籍番号》** 実習施設:《**施設》** 

・ 使用者が下間機 身を指数・社会との関係など痛広い・問題意識にもとうが、目 種について述べる これができる。 (の事件等 定記を指すけずまえがなったしなができ。 (の体験)と「事業やも確認、よかかりやすく機製のかっ 強重的に反談することができる。 (の手が丁素で、単数を外なが、ためかりをは、金銭のかっ 強重的に反談することができる。 (の手が丁素で、単数を外なが、ためかりで、一般をのできます。) 「昨と地面に合かせた技術」「清潔な身だしなみと楽智着の管理」「丁寧な言葉道い」「楽顔」「お礼・悲襲」「田線を合わせた技術」「清潔な身だしなみと楽智着の管理」「丁寧な言葉道い」「楽顔」「お・影響」「田線を合わせる)等 (関係事業制金・エー・ションを製造など、上ができる。 (影料用ののゆっているがを)出し、国立英語「即けか機を行うことができる。 (お他でみないことを発展し、影響することができる。 (日本イナルコンを発展し、影響するご会できる。 (発展・2)を発展し、影響することができる。 (発展・2)を発展し、影響することができる。 ○中砂糖素の知識と理解が十分にでき、楽器終了時末で自らの行動を機能することができる。 18 中砂糖素の知識に基づき、最大情報を保持する行動をとることができる。 9 目ら81kの登場をすることができる。 ⑥自らの実践や介護職員の実践記録などから、目標の達成度が判断できる。 ⑦新たな課題が生じていないか考察し、計画修正の必要性について判断できる。 ⑧今後の方針について検討することができる。 ③小脳器とした礼儀やマナーについてよく国際しており、自ら守ることができる。<41歳やマナーの金> ⑦介護計画(支援内容・方法)が6M1Hで具体的に立てることができる。 ③利用者及び家族やフロア職員に介護計画を適切に説明することができる。 ⑦自分の役割を自覚して、介護職員間で意見交換をすることができる。 ⑧介護職間で自分の役割を自覚して、報告・連絡・指談をすることができる。 ⑨也職種の役割を尊重したコミュニケーションをとることがができる。 専門職に必要な能力を十分に身に付けている ③利用者の心身の状態の変化に応じた対応ができる。 適利用者の自立支援を選携に、リスグキー強化に対応ができる。 可能数内の循社用具・機器を正しく使用することができる。 2階級の環境整備を行い、リスクキー類した対応ができる。 いかり数字をもとができる。 りが開かり、一小を守ることができる。 はのできませんがあったができる。 はのできまでは少なくことができる。 はのできまではかったができる。 ③他者の異なる意見を聞くことができる。(意味)・ル・な器をすることができる。(意識をつうとしての行動などることができる。(近年)の場合において仕者と協力し、協働することができる。 ④利用者家族が施設に求める役割を理解することができる。 り収集した情報が適切かどうか、検討することができる。 ⑤利用者のあるがままをを受容することができる。 ③利用者と双方向のコミュニケーションができる。 ③利用者のニーズを明確にすることができる。 ⑦自ら考えて行動できる。
⑧実習生自らの意見が言うことができる。
⑨疑問点について質問することができる。 (2分類職として礼儀やマナーの国際はあるが、歯別の行動によっては行動が伴わないこともあり、一般指象を行うして自己を合うした。 リン・関係を行うして自己を行ってものできる。 大橋をフナーの第2 「時と場面に合かせた秩移」「清潔な身だしなみと実習着の管理」「丁寧な言葉道い」「笑顔」「お礼・影顔」「日線を合わせる」等 ⑤自分と考えの異なる意見を耐べことができる。 でカードカーとができる。 でも取り上しれてもることができる。 (3) 他職事基準など機関の一人としての行動が助置によりとることができる。 (3) 小助の準備において他者との協力の必要性を理解し、助電があれば実践することができる。 (多表現可能で、評価できる長期目標・短期目標が立てることができる。 医表別目標、短期目標の初間を適切に設定できる。 自構達成に同けがが開催に「支援内略・が採)をイメージすることができている。 ④一部十分ではないが、守砂嚢素の知識があり理解することができる。⑤一部具体的な指導によって、自ら個人情報を保持する行動がとることができる。⑥一部具体的な指導によって、自らSNSの管理をすることができる。 ⑥目橋について、自らの問題意様にもよづいて述べることができる。 7それまでの診察の診験やなができるまえ、業団生の考えを述べることができる。 8体線して事業や場面を正確に記録することができる。 8原線して事業や場面を正確に記録することができる。 8原等学が少ないに関係を擔くことができる。 ⑦安全を意識し、飯族を予測しながらか臓を行うことができる。 ⑧利用者の心身の状態に合かせた小臓を行うことができる。 18月間者の人様や希望を理解した小腹を行うことができる。 18月間者の人様や希望を理解した小腹を行うことができる。 ⑩利用者にわかる方法で父の動作の説明ができ、同意を得ることができる。 ⑤利用者の心身の状態の変化を理解できる。 ⑥利用者の自立数据を開催して対象では、現場することができる。 (切割者がおれば、施設内の指針用果・機器を正しく使用することができる。 (密施設の環境整備をすることができる。 専門職に必要な能力が十分な基準に達しつつある ②情報と情報の関連性を整理し、情報と自らの持つ知道を統合化できる。 ④医療情報が理解でき、利用者の状態の予後予測ができる。 ⑤利用者の思いを把握することができる。 ④カンファンス等で各専門職の発言な容とその専門性が理解できる⑤カンファンス等の準備、進行、事後の手続きを説明することができる ③計画に沿って、適切な声かけや技術で実施できる。 ④「自立支援」「安全と安心」「尊厳の保持」を実践することができる。 ⑤実践を容観的に記録することができる。 ②施設が行う地域に開かれた行事の意義を理解することができる。 ③施設がボランティアを受け入れる意義を理解することができる。 ④自ら考えることはできるものの、行動は助言によってできる。 ⑤助言があれば、実習生自らの意見を言うことができる。 ⑥助言があれば、疑問点について質問することができる。 ⑥助言があれば、約束を守ることができる。 ⑦助言があれば、規則やルールを守ることができる。 ⑧一定程度のことは高後までやり技术ことができる。 ⑩の間があれば、報告・道修・相談をすることができる。 ⑥自己の行動を振り返ることができる。 ④介臓職員間で意見交換をすることができる。 ⑤他職種への報告・連絡・相談をすることができる。 ⑥他職種と連携の必要性を理解することができる。 ③不特定多数の人と関わることができる。
④利用者に合わせたコミュニケーションができる。 ⑤主体的に情報収集ができる。⑥情報収集のもとに観察することができる。 [外護技術の基礎知識があり、理解することができる。 ②利用者の個別性を理解するための病気や障害の知識があり、利用者の特性を理解することが ()その場の原味関心に留まっているが、目痛のふりかえリニントで送べることができる。 (②内容は光・パ、楽聞生の考えを述べることができる。 (③指数の古かいまいな表現が多く、正確さしなけるが、体験した事実や場面を配賞することがで ぞる。 ○分額額として北渡やマナーの前来は国際しつりも間別の行動が伴わず、独数回指導によって もの上が行命る。 は無なマナーの金少子との金少子との金少子との金少子という。 助と場面に合わせた検抄「清潔な身だしなみと実習着の管理」「丁寧な言葉遣い」「笑顔」「おれ、馬線」 日線を合わせる (等 ③使用筆配用具及び修工、個人情報の配述方法、指示された提出日時を守ることができる。 ③使用筆配用具及び修工、個人情報の配述方法、指示された提出日時を守ることができる。 ①衛齢者・障害者の心身についての基礎知識があり、理解することができる。 とプロウムは、インプリエン・大学を発生に関する。 では、東京・大学の大学を発生に対して、 等単音の心身の共転ぎなることの必要性について理解することができる。 の利用者のADやお扱うがあるとの必要性について理解することができる。 「助南かめれ」ば、利用者の心身の状態の変化を理解できる。 20回からかれば、利用者の自立支援を理解にて70回(支援)することができる。 20回からかれば、施設内の指址用具・機器を正しく使用することの大切をを理解できる。 30回ぎがおれば、施設の原地機器権ですることができる。 )回分と同じ考えを持つ台書の意見を聴くにとができる。 19回答しがもが、1~1~1年で考え上ができる。 19回覧を持ちれば、高額の一貫としての呼ばなどることができる。 18回覧があれば、19回の漫画において右着との協力の必要体を理解することができる。 |別画がおれば、ニーズが解決した状態を理解でき。長期目標が立てることができる。 |別画がおかれば、表現目標に向から段階的な延録目標が立てることができる。 |別画がおれば、段期目標に向から段階的な延録目標が立てることができる。 (①おいまいであるが、平砂橋祭の知識があり理解することができる。 ②複数回の具体的が指導によって、自己個人情報を保持する行動をとることができる。 1的音がおれば、各乗の重要性について顕微することができる。 現るでおれば、記録のでの重要性について顕微することができる。 はいますがあれば、最後までも少男べことができる。 はいますがわれば、最後までも少男なことができる。 はいますることができる。 はいますることができる。 専門職に必要な基礎能力が身についている ①介護職員間で意見交換をすることの必要性を理解することができる。 ②他職種への報告・連絡・相談をすることの必要性を理解できる。 ③他職種の役割や業務を理解することができる。 ①助言があれば、自ら考えることはできる。 ②助言があれば、自ら考えをまとめることができる。 ③助言があれば、疑問点について質問をまとめることができる。 できる。 (3)分種制の声単けをすることができる。 (3)分種制の声単けをすることができる。 (3)方種制の単形が大圧上的を理解することができる。 (5)場上用、機関の使用が大圧上目的を理解することができる。 (6)支種に必要なものがわかり、単編をすることができる。 ①利用者と職員の名前を覚えることができる。
②挟拶や自己紹介など、実習生自ら話しかけることができる ①施設が実習生を受け入れる意義を理解することができる ①提供しているサービスの内容と目的が理解できる ②カンファレンス等の開催目的を理解することができる ③利用者、家族の意向を中心に検討をすることができる D助書があれば、計画に沿って実施することができる。 ②実践を記録することができる。 ①情報の内容・意味を解釈することができる。
②利用者に関する医療情報を収集することができる。 専門職に必要な基礎能力が身についていない 基礎的な能力のレベルまで達していない 基礎的な能力のレベルまで達していない 基礎的な能 カのレベルま で達していない 基礎的な能力のレベルまで達していない 基礎的な能力のレベルまで達していない 基礎的な能 力のレベルまで達していない 基礎的な能力のレベルまで達していない 基礎的な能力のレベルまで達していない 5提的な能力のレベルまで達していない 基礎的な能力のレベルまで達していない 基礎的な態 カのフベルまで達していない 基礎的な能力のレベルまで達していない 基礎的な能力のレベルまで達していない 基礎的な能 カのレベルまで達していない 基礎的な能力のレベルまで達していない 基礎的な能力のレベルまで達していない 行動がとれ 13)礼儀を理解し、マナーを守ることができる 1)利用者との関係作りができる (3)利用者の個性及びその人の生活環境に対応した、日常生活に関する介護技術を習得している (6)自己の役割を自覚して、他の職種と協働できる 7)カンファレンス等においてチー・ケアの実践ができる 8)情報の解釈、統合化を行い、 ニーズを明確にすることができる。 (9)長期目標・短期目標を適切に 設定し、介護計画が立てられる。 (10) 介護計画にそって実施し、評価ができる。 (11) 施設が地域に果たしている役割がわかる 評価基準 16) 責任 愍のある行動ができる 14) 積極性のある行動ができる (5) 協関性のある行動ができる 5) 介護職員の役割がわかる (2) 個別ニーズ把握ができる 4) 介護記録が書ける 2)守秘義務を理解し、 肝価親点(目標) 利用者の理解 倫理・態度

介護遠程

役割とチームケア

介護技術

#### (3) 倫理的配慮

#### ①実習生

2019 年秋学期の介護総合演習II・III等の授業内で調査主旨や方法等を説明した後、文書にて同意を得た。

#### ②評価者 (実習施設)

2019 年 8 月に電話及び郵送にて調査趣旨や方法等を説明した後、文書にて同意を得た。

#### 5. 結果

6 つの評価項目、16 観点の評価について、それぞれの実習評価表の評価とルーブリック評価内容の記述に対する丸印の有無について度数を求め、実習段階ごとにクロス集計を行った。

#### (1) 評価項目『利用者の理解』

表 5 1) 利用者との関係作りができる

	評価基	準	基礎的	なレベル	中程度の	カレベル	十分な能	カのレベル
	実習評価	人数	①名前	②話しかけ	③関わり	④合わせる	⑤受容	⑥利用者から
全	А	13	12 (92.3%)	12 (92.3%)	11 (84.6%)	12 (92.3%)	10 (76.9%)	7 (53.8%)
体	В	17	13 (76.5%)	14 (82.4%)	12 (70.6%)	13 (76.5%)	9 (52.9%)	6 (35.3%)
	С	5	5 (100.0%)	3 (60.0%)	0 (0.0%)	2 (40.0%)	1 (20.0%)	0 (0.0%)
	D	0	_	_	-	-	-	_
実	Α	1	1 (100.0%)	1 (100.0%)	1 (100.0%)	1 (100.0%)	0 (0.0%)	1 (100.0%)
習 段	В	10	6 (60.0%)	7 (70.0%)	5 (50.0%)	8 (80.0%)	6 (60.0%)	3 (30.0%)
階	С	1	1 (100.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
I		0	_	_	_	_	_	_
実	А	4	4 (100.0%)	4 (100.0%)	3 (75.0%)	4 (100.0%)	3 (75.0%)	3 (75.0%)
習段	В	3	3 (100.0%)	3 (100.0%)	3 (100.0%)	3 (100.0%)	1 (33.3%)	3 (100.0%)
階	С	2	2 (100.0%)	1 (50.0%)	0 (0.0%)	1 (50.0%)	1 (50.0%)	0 (0.0%)
П	D	0	_		-	_	_	
実	А	8	7 (87.5%)	7 (87.5%)	7 (87.5%)	7 (87.5%)	7 (87.5%)	3 (37.5%)
習段	В	4	4 (100.0%)	4 (100.0%)	4 (100.0%)	2 (50.0%)	2 (50.0%)	0 (0.0%)
階	С	2	2 (100.0%)	2 (100.0%)	0 (0.0%)	1 (50.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
Ш	D	0	_		_	_	_	_

基礎的なレベル 中程度のレベル 評価基準 十分な能力のレベル 実習評価 人数 ①基礎知識 ②感染症 ③心身の状態 (4)ADL ⑤主体的 ⑥観察 ⑦検討 全 Α 3 2 (66.7%) 2 (66.7%) 2 (66.7%) 2 (66.7%) 3 (100.0%) 2 (66.7%) 2(66.7%)В 17 (70.8%) 19 (79.2%) 20 (83.3%) 21 (87.5%) 17 (70.8%) 12 (50.0%) 8 (33.3%) С 4 (50.0%) 4 (50.0%) 3 (37.5%) 6 (75.0%) 2 (25.0%) 3 (37.5%) 1(12.5%)D 宔 () А 習 В 7 4 (57.1%) 5 (71.4%) 4 (57.1%) 5 (71.4%) 4 (57.1%) 1 (14.3%) 1 (14.3%) 段 C 0(0.0%)5 2 (40.0%) 3 (60.0%) 2 (40.0%) 4 (80.0%) 0(0.0%)1 (20.0%) 階 D 0 実 Α 0 漝 В 7 5 (71.4%) 5 (71.4%) 7 (100.0%) 7 (100.0%) 5 (71.4%) 4 (57.1%) 3(42.9%)殷 C0 (0.0%) 1 (50.0%) 2 (100.0%) 2 (100.0%) 1 (50.0%) 2 1 (50.0%) 0 (0.0%) 階  $\Pi$ D 実 3 2 (66.7%) 2 (66.7%) 2 (66.7%) 2 (66.7%) 3 (100.0%) 2 (66.7%) 2 (66.7%) А 習 8 (80.0%) 9 (90.0%) 9 (90.0%) 9 (90.0%) В 10 8 (80.0%) 7 (70.0%) 4 (40.0%) 段 C 1 (100.0%) 1 (100.0%) 1 (100.0%) 1 (100.0%) 0(0.0%)1 0(0.0%)0(0.0%)階

表 6 2) 個別ニーズ把握ができる

評価項目『利用者の理解』には二つの観点があり、両方とも具体化方式で基準を設定している。

Ш

D

0

- 「1) 利用者との関係作りができる」(表 5) は、全体では最も高い評価を示す A 評価になるに従い、丸印の付く割合も高くなる傾向があることから、概ねルーブリック評価指標への丸印の付け方が実習評価を決定付けていることが示された。各段階では、実習段階Iは A 評価と C 評価が 1 名ずつと実習評価表の評価にばらつきが少ないことから、実習評価を付けにくい可能性があることが考えられる。実習段階IIについては、A 評価と B 評価の分かれ目は「⑤利用者のあるがままを受容することができる」が重視される可能性がある。実習段階IIIは、ルーブリックの評価指標への丸印の付け方が概ね実習評価を決定付けていた。
- 「2)個別ニーズ把握ができる」(表 6)については、全体では「⑤主体的に情報収収集できる」に丸印がつくことが A 評価の決め手となった可能性が示されたが、はっきりとした傾向は見られない。各段階では A 評価は実習段階IIIのみ丸印が付けられていた。さらに実習段階Iは「⑤主体的な収集」、実習段階IIでは「基礎的なレベル」が網羅されていることがB評価となる要件となる傾向がみられる。実習段階IIIは、B 評価と A 評価の違いが「中程度のレベル」および「十分な能力のレベル」に丸が付いているかどうかによる影響が見られるものの,明確な傾向は見られない。

したがって「1)利用者との関係作りができる」は全体では評価指標への丸印の付け方と実習評価に相関がみられたものの、「2)個別ニーズ把握ができる」は明確な傾向は読み取れない。また両基準とも実習段階によって、同じ評価指標を使用しても実習評価への影響の仕方が異なることが示された。

#### (2) 評価項目『介護技術』

評価項目『介護技術』には二つの評価観点があり、「3)利用者の個性及びその人の生活環境に応じた、日常生活に関する介護技術を習得している」は具体化方式、「4)介護記録が書ける」はステップ方式を用いている。

「3)利用者の個性及びその人の生活環境に応じた、日常生活に関する介護技術を習得している」は全体では、「基礎的なレベル」と「中程度のレベル」に一通り丸印が付くことが A 評価の条件となっている可能性がみられる。段階別にみると、実習段階Iには A 評価がなく、実習段階IIについては、「基礎的なレベル」「中程度のレベル」など広く丸印のつくことが A 評価の要件となっている傾向がみられ、実習段階IIIについては、A 評価と B 評価の違いは確実な傾向は見られなかった。

表 7 3) 利用者の個性及びその人の生活環境に応じた、 日常生活に関する介護技術を習得している

	評価基	準			基礎的	なレベル				中程度	のレベル			+	分な能力のレベ	N	
	実習評価	人数	①基礎知識	②特性理解	③声掛け	④プライバシー	⑤福祉用具	⑥準備	⑦危険予測	⑧心身状況	9希望	⑩説明同意	⑩非言語	⑫自立支援	@介護根拠	@負担ない	⑤提案
全	A	3	2 (66.7%)	2 (66.7%)	2 (66.7%)	2 (66.7%)	2 (66.7%)	2 (66.7%)	2 (66.7%)	2 (66.7%)	2 (66.7%)	2 (66.7%)	2 (66.7%)	2 (66.7%)	1 (33.3%)	1 (33.3%)	1 (33.3%)
体	В	21	18 (85.7%)	10 (47.6%)	18 (85.7%)	17 (81.0%)	15 (71.4%)	13 (61.9%)	16 (76.2%)	11 (52.4%)	13 (61.9%)	11 (52.4%)	5 (23.8%)	4 (19.0%)	2 (9.5%)	3 (14.3%)	3 (14.3%)
	С	11	9 (81.8%)	6 (54.5%)	9 (81.8%)	7 (63.6%)	6 (54.5%)	5 (45.5%)	4 (36.4%)	1 (9.1%)	1 (9.1%)	3 (27.3%)	1 (9.1%)	2 (18.2%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
	D	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
実	A	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
習段	В	6	5 (83.3%)	2 (33.3%)	5 (83.3%)	4 (66.7%)	4 (66.7%)	3 (50.0%)	4 (66.7%)	3 (50.0%)	4 (66.7%)	3 (50.0%)	1 (16.7%)	2 (33.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
内階	С	6	4 (66.7%)	2 (33.3%)	5 (83.3%)	3 (50.0%)	4 (66.7%)	3 (50.0%)	4 (66.7%)	1 (16.7%)	1 (16.7%)	3 (50.0%)	1 (16.7%)	2 (33.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
I	D	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
実	A	1	1 (100.0%)	1 (100.0%)	1 (100.0%)	1 (100.0%)	1 (100.0%)	1 (100.0%)	1 (100.0%)	1 (100.0%)	1 (100.0%)	1 (100.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
習扱	В	6	6 (100.0%)	2 (33.3%)	5 (83.3%)	5 (83.3%)	4 (66.7%)	3 (50.0%)	6 (100.0%)	3 (50.0%)	4 (66.7%)	4 (66.7%)	1 (16.7%)	1 (16.7%)	1 (16.7%)	1 (16.7%)	2 (33.3%)
階	С	2	2 (100.0%)	1 (50.0%)	1 (50.0%)	1 (50.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
II	D	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
実	A	2	1 (50.0%)	1 (50.0%)	1 (50.0%)	1 (50.0%)	1 (50.0%)	1 (50.0%)	1 (50.0%)	1 (50.0%)	1 (50.0%)	1 (50.0%)	2 (100.0%)	2 (100.0%)	1 (50.0%)	1 (50.0%)	1 (50.0%)
習段	В					8 (88.9%)					5 (55.6%)	4 (44.4%)	3 (33.3%)	1 (11.1%)	1 (11.1%)	2 (22.2%)	1 (11.1%)
階	С	3	3 (100.0%)	3 (100.0%)	3 (100.0%)	3 (100.0%)	2 (66.7%)	2 (66.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
$\blacksquare$	D	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

表 8 4) 介護記録が書ける

	評価基	準			基礎的なレベル	/			中程度の	りレベル			+:	分な能力のレー	ベル	
	実習評価	人数	①興味関心	②浅い内容	③情緒的	④記述方法	⑤2/3以上	⑥問題意識	⑦経験や学び	⑧正確な場面	⑨誤字少ない	⑩広い問題	⑪事前学習	⑫客観的	⑬丁寧	<b>印簡潔</b>
全	A	6	3 (50.0%)	3 (50.0%)	3 (50.0%)	3 (50.0%)	3 (50.0%)	3 (50.0%)	2 (33.3%)	3 (50.0%)	3 (50.0%)	4 (66.7%)	4 (66.7%)	2 (33.3%)	3 (50.0%)	4 (66.7%)
体	В	17	15 (88.2%)	14 (82.4%)	10 (58.8%)	15 (88.2%)	17 (100.0%)	12 (70.6%)	11 (64.7%)	7 (41.2%)	9 (52.9%)	1 (5.9%)	6 (35.3%)	5 (29.4%)	7 (41.2%)	6 (35.3%)
	С	12	8 (66.7%)	9 (75.0%)	7 (58.3%)	6 (50.0%)	10 (83.3%)	6 (50.0%)	4 (33.3%)	3 (25.0%)	4 (33.3%)	2 (16.7%)	3 (25.0%)	3 (25.0%)	1 (8.3%)	2 (16.7%)
	D	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
実	A	2	1 (50.0%)	1 (50.0%)	1 (50.0%)	1 (50.0%)	1 (50.0%)	1 (50.0%)	1 (50.0%)	1 (50.0%)	1 (50.0%)	1 (50.0%)	1 (50.0%)	0 (0.0%)	1 (50.0%)	1 (50.0%)
習段	В	6	5 (83.3%)	4 (66.7%)	1 (16.7%)	5 (83.3%)	6 (100.0%)	3 (50.0%)	3 (50.0%)	4 (66.7%)	2 (33.3%)	0 (0.0%)	2 (33.3%)	3 (50.0%)	3 (50.0%)	3 (50.0%)
階	С	4	3 (75.0%)	2 (50.0%)	1 (25.0%)	2 (50.0%)	3 (75.0%)	3 (75.0%)	2 (50.0%)	2 (50.0%)	2 (50.0%)	1 (25.0%)	2 (50.0%)	3 (75.0%)	1 (25.0%)	2 (50.0%)
I	D	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
実	A	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
習段	В	4	3 (75.0%)	3 (75.0%)	3 (75.0%)	4 (100.0%)	4 (100.0%)	3 (75.0%)	3 (75.0%)	2 (50.0%)	4 (100.0%)	0 (0.0%)	2 (50.0%)	2 (50.0%)	3 (75.0%)	2 (50.0%)
階	С	5	2 (40.0%)	4 (80.0%)	3 (60.0%)	1 (20.0%)	4 (80.0%)	2 (40.0%)	2 (40.0%)	1 (20.0%)	2 (40.0%)	1 (20.0%)	1 (20.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
II	D	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
実	A	4	2 (50.0%)	2 (50.0%)	2 (50.0%)	2 (50.0%)	2 (50.0%)	2 (50.0%)	1 (25.0%)	2 (50.0%)	2 (50.0%)	3 (75.0%)	3 (75.0%)	2 (50.0%)	2 (50.0%)	3 (75.0%)
習段	В	7	7 (100.0%)	7 (100.0%)	6 (85.7%)	6 (85.7%)	7 (100.0%)	6 (85.7%)	5 (71.4%)	1 (14.3%)	3 (42.9%)	1 (14.3%)	2 (28.6%)	0 (0.0%)	1 (14.3%)	1 (14.3%)
階	С	3	3 (100.0%)	3 (100.0%)	3 (100.0%)	3 (100.0%)	3 (100.0%)	1 (33.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
III	D	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

「4)介護記録が書ける」については、ステップ方式を用いている。全体では A 評価の決め手は「⑩目標と介護職員や施設、社会との関係など幅広い問題にもとづき、目標について述べる」に丸印がついているかどうかによる影響がみられるが、B 評価と C 評価の違いはあまりはっきりした傾向は見られなかった。各段階でみると、実習段階Iはばらつきが多く各評価の分かれ目は明確でない。実習段階IIは、A 評価がいなく B 評価と C 評価の違いは「④使用筆記用具及び修正、個人情報の記述方法、指示された提出日時を守ることができる」と「⑨誤字脱字の少ない記録を書くことができる」が重視される傾向がみられた。実習段階IIIはルーブリック評価指標への丸印の付け方が概ね実習評価に作用している。

以上の結果から、「3) 利用者の個性及びその人の生活環境に応じた、日常生活に関する介護技術を習得している」は全体では評価指標への丸印の付け方と実習評価の結果に相関関係がみられたが、「4) 実習記録が書ける」については全体では確固たる傾向は見られなかった。また双方の観点とも、実習段階によって評価指標の実習評価への作用の仕方が異なることが明らかになった。

#### (3) 評価項目『役割とチームケア』

『役割とチームケア』には 3 観点が設定されている。「5) 介護職員の役割がわかる」はステップ方式、「6) 自己の役割を自覚して他の職種と協働できる」は積み木方式、「7) カンファレンス等においてチームケアの実践ができる」は具体化方式で設定している。

「5)介護職員の役割がわかる」は全体ではB評価が7割を占めていた。段階別では、実習段階IはA評価がなく、B評価とC評価の違いは「基礎的なレベル」に丸印がつくかどうかによる影響がみられたが、明白な傾向は見られない。実習段階IIは「⑤利用者の心身の状態の変化を理解できる」、「⑧施設の環境整備をすることがでについてきる」に丸印が付くことがA評価の条件となっている傾向がみられた。実習段階IIIはルーブリックの評価指標への丸印の

表 9 5) 介護職員の役割がわかる

	評価基	準		基礎的	なレベル			中程度	カレベル			十分な能力	のレベル	
	実習評価	人数	①助言変化	②助言支援	③助言機器	④助言環境	⑤変化理解	⑥支援理解	⑦機器使用	⑧環境整備	⑨心身変化	⑩リスク予測	①機器正しく	⑫リスク環境
全	А	5	3 (60.0%)	3 (60.0%)	3 (60.0%)	3 (60.0%)	3 (60.0%)	3 (60.0%)	4 (80.0%)	4 (80.0%)	3 (60.0%)	1 (20.0%)	2 (40.0%)	1 (20.0%)
体	В	25	21 (84.0%)	22 (88.0%)	19 (76.0%)	18 (72.0%)	18 (72.0%)	10 (40.0%)	16 (64.0%)	8 (32.0%)	4 (16.0%)	5 (20.0%)	1 (4.0%)	3 (12.0%)
	С	5	4 (80.0%)	3 (60.0%)	2 (40.0%)	2 (40.0%)	2 (40.0%)	1 (20.0%)	1 (20.0%)	1 (20.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
	D	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
実	Α	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
習段	В	9	6 (66.7%)	7 (77.8%)	5 (55.6%)	5 (55.6%)	7 (77.8%)	6 (66.7%)	6 (66.7%)	4 (44.4%)	1 (11.1%)	1 (11.1%)	1 (11.1%)	1 (11.1%)
階	С	2	1 (50.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (50.0%)	1 (50.0%)	1 (50.0%)	1 (50.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
I	D	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
実	Α					1 (100.0%)								
習段	В	6	6 (100.0%)	6 (100.0%)	6 (100.0%)	6 (100.0%)	4 (66.7%)	3 (50.0%)	6 (100.0%)	2 (33.3%)	1 (16.7%)	1 (16.7%)	0 (0.0%)	1 (16.7%)
階	С	2	2 (100.0%)	2 (100.0%)	1 (50.0%)	1 (50.0%)	1 (50.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
II	D	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
実	Α	3	2 (66.7%)	2 (66.7%)	2 (66.7%)	2 (66.7%)	2 (66.7%)	3 (100.0%)	3 (100.0%)	3 (100.0%)	3 (100.0%)	1 (33.3%)	2 (66.7%)	1 (33.3%)
習段	В	10	9 (90.0%)	9 (90.0%)	8 (80.0%)	7 (70.0%)	7 (70.0%)	1 (10.0%)	4 (40.0%)	2 (20.0%)	2 (20.0%)	3 (30.0%)	0 (0.0%)	1 (10.0%)
階	С	1	1 (100.0%)	1 (100.0%)	1 (100.0%)	1 (100.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
Ш	D	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	_

表 10 6) 自己の役割を理解して、他の職種と協働できる

	評価基	準		基礎的なレベル	,		中程度のレベバ	V	+:	分な能力のレヘ	ジル
	実習評価	人数	①介職意見	②報連理解	③他職理解	④意見交換	⑤報連相	⑥連携必要	⑦役割意見	⑧役割報連	⑨多職尊重
全	А	3	2 (66.7%)	2 (66.7%)	2 (66.7%)	3 (100.0%)	2 (66.7%)	3 (100.0%)	2 (66.7%)	2 (66.7%)	0 (0.0%)
体	В	18	16 (88.9%)	15 (83.3%)	14 (77.8%)	6 (33.3%)	8 (44.4%)	14 (77.8%)	3 (16.7%)	6 (33.3%)	4 (22.2%)
	С	12	9 (75.0%)	9 (75.0%)	11 (91.7%)	3 (25.0%)	0 (0.0%)	3 (25.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
	D	2	1 (50.0%)	1 (50.0%)	1 (50.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
実	А	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-
習段	В	6	5 (83.3%)	4 (66.7%)	4 (66.7%)	1 (16.7%)	2 (33.3%)	5 (83.3%)	1 (16.7%)	3 (50.0%)	2 (33.3%)
階	С	5	4 (80.0%)	3 (60.0%)	4 (80.0%)	2 (40.0%)	0 (0.0%)	3 (60.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
I	D	1	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
実	А	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-
習段	В	3	3 (100.0%)	3 (100.0%)	3 (100.0%)	1 (33.3%)	1 (33.3%)	2 (66.7%)	0 (0.0%)	1 (33.3%)	2 (66.7%)
階	С	5	3 (60.0%)	4 (80.0%)	5 (100.0%)	1 (20.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
Π	D	1	1 (100.0%)	1 (100.0%)	1 (100.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
実	А	3	2 (66.7%)	2 (66.7%)	2 (66.7%)	3 (100.0%)	2 (66.7%)	3 (100.0%)	2 (66.7%)	2 (66.7%)	0 (0.0%)
習段	В	9	8 (88.9%)	8 (88.9%)	7 (77.8%)	4 (44.4%)	5 (55.6%)	7 (77.8%)	2 (22.2%)	2 (22.2%)	0 (0.0%)
階	С	2	2 (100.0%)	2 (100.0%)	2 (100.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
Ш	D	0	-	_	_	-	-	-	-	-	-

	評価基	準		基礎的なレベル	/	中程度の	)レベル		十分なレベル	
	実習評価	人数	①サー理解	②カン目的	③利家中心	④発言理解	⑤手続き	⑥意義	⑦意見	8記録
全	А	4	4 (100.0%)	4 (100.0%)	3 (75.0%)	4 (100.0%)	1 (25.0%)	4 (100.0%)	2 (50.0%)	1 (25.0%)
体	В	8	6 (75.0%)	5 (62.5%)	6 (75.0%)	5 (62.5%)	2 (25.0%)	2 (25.0%)	2 (25.0%)	1 (12.5%)
	С	11	6 (54.5%)	7 (63.6%)	8 (72.7%)	1 (9.1%)	1 (9.1%)	2 (18.2%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
	D	0	-	-	-	_	-	-	-	_
実	А	0	-	-	-	-	-	-	-	-
習段	В	0	-	-	-	_	_	-	-	-
階	С	0	-	-	_	_	_	_	-	_
I	D	0	-	-	-	_	-	_	-	_
実	А	0	-		-	_	-	-	-	-
習 段	В	3	2 (66.7%)	2 (66.7%)	2 (66.7%)	2 (66.7%)	1 (33.3%)	1 (33.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
階	С	6	3 (50.0%)	3 (50.0%)	5 (83.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (16.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
П	D	0	-	-	-	_	-	-	-	-
実	А	4	4 (100.0%)	4 (100.0%)	3 (75.0%)	4 (100.0%)	1 (25.0%)	4 (100.0%)	2 (50.0%)	1 (25.0%)
習段	В	5	4 (80.0%)	3 (60.0%)	4 (80.0%)	3 (60.0%)	1 (20.0%)	1 (20.0%)	2 (40.0%)	1 (20.0%)
階	С	5	3 (60.0%)	4 (80.0%)	3 (60.0%)	1 (20.0%)	1 (20.0%)	1 (20.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
Ш	D	Ω	_	_	_	_	_	_	_	_

表 11 7) カンファレンス等においてチームケアの実践ができる

「6)自己の役割を理解して、他の職種と協働できる」については、評価表で唯一、積み木方式を用いて評価基準を説明している。全体では、A 評価は「中程度のレベル」に多く丸印が付いていて、「基礎的なレベル」は3 観点とも B 評価、C 評価より低い割合となっている。各段階については、実習段階Iと実習段階IIに D 評価がいた。また A 評価は実習段階IIIのみに付けられていた。実習段階Iは「⑥多職種と連携の必要性を理解することができる」に丸印がつくかどうかが B 評価となる要件の可能性があるが、確実な傾向は見られない。実習段階II は C 評価と D 評価については、評価指標への印の付け方の違いに、はっきりとした傾向はみられない。実習段階IIIは「④介護職員間で意見交換をすることができる」と「⑥多職種との連携の必要性を理解することができる」が A 評価の決め手となっている傾向がみられる。

「7)カンファレンス等においてチームケアの実践ができる」は実習段階IIと実習段階IIIが評価の対象である。全体では評価指標の丸印の付け方は、評価が高くなるに従い、評価指標に印の付く割合も高くなる傾向がみられることから、概ね実習評価に反映されていることが示された。段階別では、実習段階IIではA評価がなく、B評価とC評価の分かれ目は中程度のレベルに印が付くことであることが推測されるが、明確な傾向はわからない。介護実習IIIは概ねルーブリックの評価指標が実習評価を規定していると考えられる。

以上の分析から、「7)カンファレンス等においてチームケアの実践ができる」は全体でルーブリックの評価指標の丸印と実習評価表には相関関係が見られた。また「5)介護職員の役割がわかる」「6)自己の役割を理解して、他の職種と協働できる」を合わせた三つの評価観点で、実習段階によって評価指標の実習評価への影響の仕方は異なっていることが示唆された。

# (4) 評価項目『介護過程』

表 12 8) 情報の解釈、統合化を行い、短期目標を適切にすることができる

	評価基	準	基礎的な	よレベル		中程度のレベル	,	十分なレベル
	実習評価	人数	①解釈	②医療情報	③統合化	④予後予測	⑤思い	⑥ニーズ
全	А	5	3 (60.0%)	3 (60.0%)	4 (80.0%)	3 (60.0%)	3 (60.0%)	4 (80.0%)
体	В	13	11 (84.6%)	9 (69.2%)	5 (38.5%)	4 (30.8%)	9 (69.2%)	4 (30.8%)
	С	5	4 (80.0%)	4 (80.0%)	1 (20.0%)	1 (20.0%)	3 (60.0%)	1 (20.0%)
	D	0	_	_	_	_	_	_
実	А	0	_	_	_	-	_	_
習段	В	0	_	_	_	_	_	-
階	С	0	_	_	_	_	_	_
I	D	0	_	_	_	_	_	
実	А	0	_	-	_	-	_	_
習段	В	5	3 (60.0%)	3 (60.0%)	2 (40.0%)	0 (0.0%)	4 (80.0%)	2 (40.0%)
階	С	4	3 (75.0%)	3 (75.0%)	1 (25.0%)	1 (25.0%)	3 (75.0%)	1 (25.0%)
Π	D	0	_	_	_	_	_	_
実	А	5	3 (60.0%)	3 (60.0%)	4 (80.0%)	3 (60.0%)	3 (60.0%)	4 (80.0%)
習段	В	8	8 (100.0%)	6 (75.0%)	3 (37.5%)	4 (50.0%)	5 (62.5%)	2 (25.0%)
階	С	1	1 (100.0%)	1 (100.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
Ш	D	0	_	_	_	_	_	_

表 13 9) 長期目標・短期目標を適切に設定し、介護計画が立てられる

	評価基	準		基礎的なレベル			中程度のレベル		十分なり	ノベル
	実習評価	人数	①助言長期	②助言短期	③助言期間	④実現目標	⑤期間説明	⑥イメージ	⑦5W1H	⑧適切説明
全	А	7	5 (71.4%)	5 (71.4%)	4 (57.1%)	5 (71.4%)	4 (57.1%)	5 (71.4%)	6 (85.7%)	4 (57.1%)
体	В	10	9 (90.0%)	10 (100.0%)	9 (90.0%)	6 (60.0%)	7 (70.0%)	6 (60.0%)	1 (10.0%)	1 (10.0%)
	С	6	6 (100.0%)	6 (100.0%)	6 (100.0%)	2 (33.3%)	2 (33.3%)	1 (16.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
	D	0	-	_			-	-	-	-
実	Α	0	-	-				-		-
習 段	В	0	-	-				-		-
階	С	0	-	-				-		-
I	D	0	-		-	_	_	_	_	
実	А	1						1 (100.0%)	1 (100.0%)	0 (0.0%)
習 段	В	4	4 (100.0%)	4 (100.0%)	4 (100.0%)	3 (75.0%)	4 (100.0%)	2 (50.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
階	С	4	4 (100.0%)	4 (100.0%)	4 (100.0%)	2 (50.0%)	2 (50.0%)	1 (25.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
П	D	0	-		-	_	-	_	_	
実	А	6	4 (66.7%)	4 (66.7%)	3 (50.0%)	4 (66.7%)	3 (50.0%)	4 (66.7%)	5 (83.3%)	4 (66.7%)
習 段	В	6	5 (83.3%)	6 (100.0%)	5 (83.3%)	3 (50.0%)	3 (50.0%)	4 (66.7%)	1 (16.7%)	1 (16.7%)
階	С	2	2 (100.0%)	2 (100.0%)	2 (100.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
III	D	0	-	_	-	_		-	_	_

表 14 10) 介護計画に沿って実施し、評価ができる

	評価基準	<b>性</b>	基礎的	なレベル		中程度のレベル			十分なレベル	
	実習評価	人数	①助言計画	②実践記録	④実践	⑤自安尊	⑥記録	⑦達成度	⑧修正	⑨今後方針
全	А	5	3 (60.0%)	3 (60.0%)	3 (60.0%)	2 (40.0%)	2 (40.0%)	3 (60.0%)	2 (40.0%)	1 (20.0%)
体	В	7	7 (100.0%)	7 (100.0%)	6 (85.7%)	5 (71.4%)	3 (42.9%)	2 (28.6%)	3 (42.9%)	4 (57.1%)
	С	11	9 (81.8%)	9 (81.8%)	3 (27.3%)	2 (18.2%)	2 (18.2%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
	D	0	_	_	_	_	_	_	_	_
実	А	0	-	_	_	_	_	-	_	_
習段	В	0	-	_	_	_	_	-	_	_
階	С	0	-	_	_	_	_	-	_	_
I	D	0	_	_	_	-	_	-	-	_
実	А	0	-	-	-	-	-	-	-	_
習段	В	0	-	_	_	_	_	-	_	_
階	С	9	7 (77.8%)	7 (77.8%)	2 (22.2%)	2 (22.2%)	2 (22.2%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
Π	D	0	_	_	_	_	_	_	_	_
実	А	5	3 (60.0%)	3 (60.0%)	3 (60.0%)	2 (40.0%)	2 (40.0%)	3 (60.0%)	2 (40.0%)	1 (20.0%)
習段	В	7	7 (100.0%)	7 (100.0%)	6 (85.7%)	5 (71.4%)	3 (42.9%)	2 (28.6%)	3 (42.9%)	4 (57.1%)
階	С	2	2 (100.0%)	2 (100.0%)	1 (50.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
III	D	0	-	_	_	-	_	_	-	_

評価項目『介護過程』には三つの評価観点が含まれている。「8) 情報の解釈、統合化を行い、ニーズを明確にすることができる」は具体化方式で基準を設定しており、「9) 長期目標、短期目標を適切に設定し、介護計画が立てられる」と「10) 介護計画にそって実施し、評価ができる」はステップ方式で基準を設けていた。3 観点とも、評価対象は実習段階IIと実習段階IIである。

- 「8)情報の解釈、統合化を行い、ニーズを明確にすることができる」は、「基礎的なレベル」については A 評価より B 評価と C 評価に多く丸印がついていた。 A 評価になる要件は、「十分なレベル」に丸印がつくかどうかによる影響とみられるが、はっきりした傾向は見受けられない。段階別では、実習段階IIは A 評価がないことに加え、B 評価と C 評価の違いも明確な傾向は見られない。実習段階IIIは A 評価と B 評価の分かれ目は「③情報と情報の関連性を整理し、情報と自らの持つ知識を統合化できる」と「⑥利用者のニーズを明確にすることができる」に丸印か付くかどうかが影響すると考えられる。
- 「9)長期目標・短期目標を適切に設定し、介護計画が立てられる」については、ステップ方式のためレベルが上がるに従って高い評価の割合が上昇していることから、全体として、ルーブリックの評価指標への丸印の付け方が概ね実習評価に反映されていると考えられる。各段階は、実習段階IIは、基礎的なレベルで全ての評価の実習生に丸印が付いた。また実習段階II、実習段階IIIともの A 評価の決め手は「⑦介護計画(支援内容・方法)が 5W1H で具体的にたてることができる」が重視されやすい可能性があった。
- 「10)介護計画に沿って実施し、評価ができる」については、全体では「⑦自らの実践や介護職員の実習記録などから、目標の達成度が判断できる」以外は、全ての評価基準で A 評価より B 評価に丸印が付けられる割合は高かった。段階別では、実習段階IIは 9 名全員 C 評価

であった。実習段階Ⅲは、全体と同様 1 つ以外の評価基準で B 評価が A 評価より高い割合で 丸印が付けられていた。

以上の分析から、「9)長期目標、短期目標を適切に設定し、介護計画が立てられる」は、全体でも、各段階としてもルーブリックの評価指標の丸印と実習評価表には相関関係がみられた。「8)情報の解釈、統合化を行い、ニーズを明確にすることができる」は、実習段階によって評価指標の実習評価への影響の仕方が異なることが示された。また「10)介護計画にそって実施し、評価ができる」については、全体でも、各評価段階においても評価指標に付く丸印と実習評価の間に関係性は見えなかった。

#### (5) 評価項目『社会関係』

	評価基	準	基礎的なレベル	中程度の	十分なレベル	
	実習評価	人数	①実習生	②行事	③ボラ	④家族
全	А	5	3 (60.0%)	5 (100.0%)	5 (100.0%)	4 (80.0%)
体	В	10	8 (80.0%)	6 (60.0%)	6 (60.0%)	2 (20.0%)
	С	8	6 (75.0%)	3 (37.5%)	2 (25.0%)	2 (25.0%)
	D	0	_	_	_	_
実	А	0	-	_	_	_
習段	В	0	-	_	_	_
階	C 0		_	_	_	_
I	D	0	_	_	_	_
実	А	1	1 (100.0%)	1 (100.0%)	1 (100.0%)	1 (100.0%)
習段	В	4	3 (75.0%)	3 (75.0%)	3 (75.0%)	1 (25.0%)
階	С	4	3 (75.0%)	1 (25.0%)	1 (25.0%)	1 (25.0%)
II	D	0	_	_	_	_
実	А	4	2 (50.0%)	4 (100.0%)	4 (100.0%)	3 (75.0%)
習段	В	6	5 (83.3%)	3 (50.0%)	3 (50.0%)	1 (16.7%)
階	С	4	3 (75.0%)	2 (50.0%)	1 (25.0%)	1 (25.0%)
Ш	D	0	-	_	_	

表 15 11) 施設が地域に果たしている役割がわかる

評価項目『社会関係』については、観点として「11)施設が地域に果たしている役割がわかる」の一つで構成され、具体化方式で評価基準を設けている。この観点の評価対象も介護実習IIと介護実習IIIとしている。まず全体については、中程度のレベルの全てに印が付くことが A 評価の要件となっている傾向がみられる。各段階では、実習段階IIについては、ルーブリックの評価指標への丸印の付け方が概ね実習評価に反映されているが、介護実習IIIの B 評価と C 評価の分かれ目は、「②ボランティアを受け入れる意義を理解することができる」に丸印が付くかどうかによる影響の可能性があるものの、はっきりした傾向は見られない。

したがって本評価観点は、全体として評価指標に付いている丸印と実習評価は相関していることが明らかになった。しかし実習段階IIとIIIによって評価基準への丸印の付け方が、実習評価に反応の仕方が異なっていることが示唆された。

# (6)『倫理、態度』

表 16 12) 守秘義務を理解し、行動がとれる

	評価基	準		基礎的なレベル			中程度のレベル		十分なレベル			
	実習評価	人数	①あいまい	②複数指導	③SNS管理	④一部知識	⑤一部自ら	@SNS	⑦行動徹底	⑧個人情報	⑨SNS管理	
全	А	20	11 (55.0%)	10 (50.0%)	9 (45.0%)	11 (55.0%)	10 (50.0%)	8 (40.0%)	17 (85.0%)	15 (75.0%)	14 (70.0%)	
体	В	13	5 (38.5%)	7 (53.8%)	4 (30.8%)	7 (53.8%)	9 (69.2%)	7 (53.8%)	5 (38.5%)	4 (30.8%)	5 (38.5%)	
	С	2	2 (100.0%)	1 (50.0%)	1 (50.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	
	D	0	-	-	-	-	-	-	-	-		
実	А	6	2 (33.3%)	1 (16.7%)	1 (16.7%)	2 (33.3%)	1 (16.7%)	0 (0.0%)	5 (83.3%)	5 (83.3%)	3 (50.0%)	
習段	В	5	2 (40.0%)	2 (40.0%)	2 (40.0%)	3 (60.0%)	4 (80.0%)	3 (60.0%)	2 (40.0%)	3 (60.0%)	3 (60.0%)	
階	С	1	1 (100.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	
I	D	0	-	-	-	-	-	-	-	-		
実	А	5	5 (100.0%)	5 (100.0%)	4 (80.0%)	5 (100.0%)	5 (100.0%)	4 (80.0%)	5 (100.0%)	4 (80.0%)	4 (80.0%)	
習段	В	4	0 (0.0%)	1 (25.0%)	0 (0.0%)	1 (25.0%)	2 (50.0%)	2 (50.0%)	2 (50.0%)	1 (25.0%)	2 (50.0%)	
階	С	0	-	_	-	-	_	-	_	_	_	
II	D	0	-	_	=	_	_	-	-	_		
実	А	9	4 (44.4%)	4 (44.4%)	4 (44.4%)	4 (44.4%)	4 (44.4%)	4 (44.4%)	7 (77.8%)	6 (66.7%)	7 (77.8%)	
習段	В	4	3 (75.0%)	4 (100.0%)	2 (50.0%)	3 (75.0%)	3 (75.0%)	2 (50.0%)	1 (25.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	
階	С	1	1 (100.0%)	1 (100.0%)	1 (100.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	
III	D	0	-	_	-	-	_	-	_	_		

表 17 13) 礼儀を理解し、マナーを守ることができる

	評価基	:準	基礎的なレベル	中程度のレベル	十分なレベル		
	実習評価	人数	①複数指導	②一部指導	③よく理解		
全	А	18	4 (22.2%)	3 (16.7%)	15 (83.3%)		
体	В	12	8 (66.7%)	7 (58.3%)	2 (16.7%)		
	С	5	3 (60.0%)	1 (20.0%)	0 (0.0%)		
	D	0	_	_	_		
実	А	8	1 (12.5%)	1 (12.5%)	6 (75.0%)		
習段	В 3		2 (66.7%)	1 (33.3%)	0 (0.0%)		
階	C 1		1 (100.0%)	1 (100.0%)	0 (0.0%)		
Ι	D	0	_	_	-		
実	А	2	2 (100.0%)	1 (50.0%)	2 (100.0%)		
習段	В	4	2 (50.0%)	3 (75.0%)	0 (0.0%)		
階	С	3	2 (66.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)		
П	D	0	_	_	-		
実	А	8	1 (12.5%)	1 (12.5%)	7 (87.5%)		
習段	В 5		4 (80.0%)	3 (60.0%)	2 (40.0%)		
階	С	1	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)		
Ш	D	0	_	_	_		

表 18 14) 積極性のある行動ができる

	評価基	準		基礎的なレベル			中程度のレベル	/	十分なレベル			
	実習評価	人数	①助言考え	②助言まとめ	③助言疑問	④助言行動	⑤助言意見	⑥助言質問	⑦行動	⑧意見	⑨質問	
全	А	11	4 (36.4%)	4 (36.4%)	3 (27.3%)	6 (54.5%)	6 (54.5%)	3 (27.3%)	7 (63.6%)	9 (81.8%)	10 (90.9%)	
体	В	16	8 (50.0%)	8 (50.0%)	6 (37.5%)	13 (81.3%)	8 (50.0%)	10 (62.5%)	4 (25.0%)	5 (31.3%)	4 (25.0%)	
	С	7	7 (100.0%)	5 (71.4%)	5 (71.4%)	3 (42.9%)	1 (14.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	
	D	1	0 (0.0%)	1 (100.0%)	1 (100.0%)	1 (100.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	
実	А	3	1 (33.3%)	1 (33.3%)	0 (0.0%)	2 (66.7%)	2 (66.7%)	0 (0.0%)	2 (66.7%)	2 (66.7%)	3 (100.0%)	
習段	В	7	3 (42.9%)	2 (28.6%)	2 (28.6%)	6 (85.7%)	4 (57.1%)	4 (57.1%)	1 (14.3%)	1 (14.3%)	0 (0.0%)	
階	С	2	2 (100.0%)	1 (50.0%)	1 (50.0%)	1 (50.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	
I	D	0	_	_	-	_	-	_	_	-		
実	А	1	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (100.0%)	1 (100.0%)	1 (100.0%)	
習段	В	5	3 (60.0%)	4 (80.0%)	2 (40.0%)	4 (80.0%)	3 (60.0%)	3 (60.0%)	2 (40.0%)	3 (60.0%)	3 (60.0%)	
階	С	2	2 (100.0%)	1 (50.0%)	1 (50.0%)	1 (50.0%)	1 (50.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	
П	D	1	0 (0.0%)	1 (100.0%)	1 (100.0%)	1 (100.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	
実	А	7	3 (42.9%)	3 (42.9%)	3 (42.9%)	4 (57.1%)	4 (57.1%)	3 (42.9%)	4 (57.1%)	6 (85.7%)	6 (85.7%)	
習段	В	4	2 (50.0%)	2 (50.0%)	2 (50.0%)	3 (75.0%)	1 (25.0%)	3 (75.0%)	1 (25.0%)	1 (25.0%)	1 (25.0%)	
階	С	3	3 (100.0%)	3 (100.0%)	3 (100.0%)	1 (33.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	
III	D	0	_	_	-	-	-	_	_	-	_	

表 19 15) 協調性のある行動がとれる

	評価基	準		基礎的	なレベル			中程度0	)レベル		十分なレベル				
	実習評価	人数	⑫他者意見	②助言ルー	③助言一員	④助言協力	⑤自異意見	⑥助言連携	⑦一定ルー	⑧助言協力	⑩他異意見	(j)/V-/V	⑮組織一員	16他者協力	
全	А	9	3 (33.3%)	3 (33.3%)	3 (33.3%)	3 (33.3%)	5 (55.6%)	4 (44.4%)	5 (55.6%)	5 (55.6%)	6 (66.7%)	6 (66.7%)	6 (66.7%)	6 (66.7%)	
体	В	21	12 (57.1%)	12 (57.1%)	14 (66.7%)	10 (47.6%)	14 (66.7%)	9 (42.9%)	8 (38.1%)	15 (71.4%)	6 (28.6%)	11 (52.4%)	5 (23.8%)	3 (14.3%)	
	С	4	4 (100.0%)	3 (75.0%)	3 (75.0%)	3 (75.0%)	1 (25.0%)	1 (25.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (25.0%)	1 (25.0%)	1 (25.0%)	0 (0.0%)	
	D	1	1 (100.0%)	1 (100.0%)	1 (100.0%)	1 (100.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	
実	А	2	1 (50.0%)	1 (50.0%)	1 (50.0%)	1 (50.0%)	1 (50.0%)	1 (50.0%)	1 (50.0%)	1 (50.0%)	2 (100.0%)	2 (100.0%)	2 (100.0%)	2 (100.0%)	
習段	В	9	3 (33.3%)	3 (33.3%)	4 (44.4%)	2 (22.2%)	6 (66.7%)	3 (33.3%)	1 (11.1%)	6 (66.7%)	3 (33.3%)	5 (55.6%)	1 (11.1%)	0 (0.0%)	
階	С	1	1 (100.0%)	1 (100.0%)	1 (100.0%)	1 (100.0%)	1 (100.0%)	1 (100.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (100.0%)	1 (100.0%)	1 (100.0%)	0 (0.0%)	
I	D	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
実	А	2	1 (50.0%)	1 (50.0%)	1 (50.0%)	1 (50.0%)	2 (100.0%)	2 (100.0%)	2 (100.0%)	2 (100.0%)	1 (50.0%)	1 (50.0%)	1 (50.0%)	1 (50.0%)	
習段	В	4	3 (75.0%)	3 (75.0%)	4 (100.0%)	2 (50.0%)	4 (100.0%)	3 (75.0%)	2 (50.0%)	3 (75.0%)	2 (50.0%)	3 (75.0%)	3 (75.0%)	3 (75.0%)	
階	С	2	2 (100.0%)	1 (50.0%)	1 (50.0%)	1 (50.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	
${\mathbb I}$	D	1	1 (100.0%)	1 (100.0%)	1 (100.0%)	1 (100.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	
実	А	5	1 (20.0%)	1 (20.0%)	1 (20.0%)	1 (20.0%)	2 (40.0%)	1 (20.0%)	2 (40.0%)	2 (40.0%)	3 (60.0%)	3 (60.0%)	3 (60.0%)	3 (60.0%)	
習段	В	8	6 (75.0%)	6 (75.0%)	6 (75.0%)	6 (75.0%)	4 (50.0%)	3 (37.5%)	5 (62.5%)	6 (75.0%)	1 (12.5%)	3 (37.5%)	1 (12.5%)	0 (0.0%)	
階	С	1	1 (100.0%)	1 (100.0%)	1 (100.0%)	1 (100.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	
${\rm I\hspace{1em}I}$	D	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

表 20 16) 責任感のある行動ができる

П	評価基準		基礎的なレベル					中程度のレベル					十分なレベル				
	実習評価	人数	①約束理解	②規則理解	③助言最後	④法連理解	⑤助言振返	⑥助言約束	⑦助言ルール	⑧一定やり	⑨助言報連	⑩振り返る	⑩約束	⑫ルール	③やり抜く	鱼報連相	⑤自己振返
全	А	14	4 (28.6%)	4 (28.6%)	4 (28.6%)	4 (28.6%)	4 (28.6%)	4 (28.6%)	5 (35.7%)	5 (35.7%)	5 (35.7%)	6 (42.9%)	11 (78.6%)	12 (85.7%)	12 (85.7%)	11 (78.6%)	12 (85.7%)
体	В	11	4 (36.4%)	5 (45.5%)	6 (54.5%)	6 (54.5%)	7 (63.6%)	8 (72.7%)	8 (72.7%)	9 (81.8%)	7 (63.6%)	8 (72.7%)	6 (54.5%)	5 (45.5%)	5 (45.5%)	4 (36.4%)	5 (45.5%)
	C	9	9 (100.0%)	9 (100.0%)	9 (100.0%)	8 (88.9%)	7 (77.8%)	6 (66.7%)	4 (44.4%)	5 (55.6%)	4 (44.4%)	3 (33.3%)	4 (44.4%)	4 (44.4%)	1 (11.1%)	1 (11.1%)	2 (22.2%)
┙	D	1	1 (100.0%)	1 (100.0%)	1 (100.0%)	1 (100.0%)	1 (100.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
実	A	5	1 (20.0%)	1 (20.0%)	1 (20.0%)	1 (20.0%)	1 (20.0%)	0 (0.0%)	1 (20.0%)	1 (20.0%)	1 (20.0%)	1 (20.0%)	5 (100.0%)	5 (100.0%)	5 (100.0%)	5 (100.0%)	5 (100.0%)
習段	В	4	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (25.0%)	0 (0.0%)	1 (25.0%)	2 (50.0%)	2 (50.0%)	2 (50.0%)	1 (25.0%)	2 (50.0%)	2 (50.0%)	2 (50.0%)	2 (50.0%)	1 (25.0%)	2 (50.0%)
階	C	3	3 (100.0%)	3 (100.0%)	3 (100.0%)	3 (100.0%)	2 (66.7%)	3 (100.0%)	3 (100.0%)	3 (100.0%)	3 (100.0%)	2 (66.7%)	3 (100.0%)	3 (100.0%)	1 (33.3%)	1 (33.3%)	1 (33.3%)
I	D	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
実	A	2	1 (50.0%)	1 (50.0%)	1 (50.0%)	1 (50.0%)	1 (50.0%)	2 (100.0%)	2 (100.0%)	2 (100.0%)	2 (100.0%)	2 (100.0%)	1 (50.0%)	2 (100.0%)	1 (50.0%)	0 (0.0%)	1 (50.0%)
習段	В	4	2 (50.0%)	3 (75.0%)	3 (75.0%)	4 (100.0%)	4 (100.0%)	4 (100.0%)	4 (100.0%)	4 (100.0%)	3 (75.0%)	3 (75.0%)	3 (75.0%)	3 (75.0%)	3 (75.0%)	3 (75.0%)	3 (75.0%)
階	C	2	2 (100.0%)	2 (100.0%)	2 (100.0%)	1 (50.0%)	2 (100.0%)	1 (50.0%)	1 (50.0%)	1 (50.0%)	1 (50.0%)	1 (50.0%)	1 (50.0%)	1 (50.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (50.0%)
II	D	1	1 (100.0%)	1 (100.0%)	1 (100.0%)	1 (100.0%)	1 (100.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
実	A	7	2 (28.6%)	2 (28.6%)	2 (28.6%)	2 (28.6%)	2 (28.6%)	2 (28.6%)	2 (28.6%)	2 (28.6%)	2 (28.6%)	3 (42.9%)	5 (71.4%)	5 (71.4%)	6 (85.7%)	6 (85.7%)	6 (85.7%)
習段	В	3	2 (66.7%)	2 (66.7%)	2 (66.7%)	2 (66.7%)	2 (66.7%)	2 (66.7%)	2 (66.7%)	3 (100.0%)	3 (100.0%)	3 (100.0%)	1 (33.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
階	C	4	4 (100.0%)	4 (100.0%)	4 (100.0%)	4 (100.0%)	3 (75.0%)	2 (50.0%)	0 (0.0%)	1 (25.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
1	D	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

評価項目『倫理・態度』は全部で 5 個の評価観点に分かれている。全ての評価観点は全実習段階を評価対象としており、評価基準は全てステップ方式で設定されている。「12)守秘義務を理解し、行動がとれる」については、全体では評価基準のレベルが上がるに連れ、実習評価も高い評価が占める割合が多くなっていることから、概ね評価指標の丸印の付け方が実習評価と相関を示していることがうかがえる。段階別では、実習段階IIに C 評価はおらず、実習段階Iと実習段階IIIも C 評価は各一人ずつだった。また実習段階Iは、A 評価と B 評価の分かれ目は「⑦守秘義務の知識と理解が十分にでき、実習終了時まで自らの行動を徹底することができる」「⑧守秘義務の知識に基づき、個人情報を保持する行動をとることができる」に丸印がつくことが重視されやすいことが見受けられるが、明白な傾向はみられない。実習段階IIは、A 評価はほぼすべての観点に印がつく傾向がある。介護実習IIIは評価基準に付けた丸印の付け方が概ね実習評価を規定している。

- 「13)礼儀を理解し、マナーを守ることができる」は、各レベルに一つの基準とし指導の回数などで評価基準を説明している。そのため本来であれば「基礎」か「中程度」か、「十分」のどれか 1 か所に丸印が付くとなることを予測していた。しかし全体では、A 評価は 18 名に対して 22 か所、B 評価は 12 名に対して 17 か所に丸印が付けられていた。各実習段階では、どの実習段階においても A 評価は基礎的なレベルから「十分なレベル」まで丸印が付けられていた。
- 「14) 積極性のある行動ができる」は、全体では、実習評価が高い評価になるに連れ、ルーブリックの丸印の付くレベルも高くなっていく傾向がみられ、概ねルーブリックの評価指標への丸印の付け方が実習評価に反映されている。各実習段階においても、全体と同様の傾向がみられルーブリックの評価指標への丸印の付け方が概ね実習評価に影響していると考えられる。

- 「15)協調性のある行動がとれる」については、全体としてはA評価の決め手は「⑪組織の一員としての行動をとることができる」「⑫介助の場面において他者と協力し、協働することができる」に丸印が付くかどうかである可能性が見受けられるものの、はっきりとした傾向は見られなかった。各段階では、実習段階 I についてはどの評価も全てのレベルに丸印が付いており、はっきりした傾向は見られない。実習段階 II ではID評価がいることのほか、IC評価との違いがはっきりしていない。実習段階 IIIII はルーブリックの評価指標への丸印の付け方が概ね実習評価を決定付けていた。
- 「16)責任感のある行動ができる」は全体的には、評価基準のレベルが上がるについて、実習評価も高い評価が増える傾向がみられ、概ねルーブリックの評価指標への印の付け方が実習評価に反映していることが確認できた。実習段階別では、実習段階Iでは「十分なレベル」を網羅することが A 評価となる要件である可能性はあるが、B 評価と C 評価の違いに確実な傾向が見受けられない。実習段階IIにおいても、A 評と B 評価の違いに明白な傾向が見られない。実習段階IIIは、ルーブリックの評価指標への丸印の付け方が概ね実習評価に反映されていた。

以上の分析結果から、「14)積極性のある行動ができる」については全体でも、各段階についても実習評価指標の丸印に付き方と実習評価に相関がみられた。また「12)守秘義務を理解し、行動がとれる」「16)責任感のある行動ができる」については全体の結果から評価指標と実習評価の間に相関は認められたが、実習段階によって実習評価への影響の仕方が異なっていることが明らかになった。「15)協調性のある行動ができる」については、全体では評価指標の丸印の付け方と実習評価には相関は認められなかったが、実習段階によって実習評価への作用の仕方が異なることが示された。「13)礼儀を理解し、マナーを守ることができる」については、「複数回指導によって」できることが「自ら行動する」こともできることとして、同一人物の評価として付けられており、矛盾した評価がされていることがわかった。

#### 6. 考察

本研究において実習段階に関わらずルーブリックの評価が実習評価に反映されていたのは、評価項目『介護過程』の「9)長期目標・短期目標を適切に設定し、介護計画が立てられる」と、評価項目『倫理・態度』の「14)積極性のある行動ができる」の2評価観点であった。これらの2観点は、実習学生の能力をどの学生にも同じく測定していることが示された。すなわち、施設の種別や施設の場所、さらに実習段階が異なっていても、適切に評価されていたことを意味し、評価の妥当性を示す結果と考えられる。

また全体ではルーブリック評価指標の丸印の付け方と実習評価が相関関係にあったものの、 一部の実習段階のみでしか相関関係が見られなかったのは 6 評価観点である。これらは限定 的であるが実習学生の能力を測定できていると考えられる。 さらに実習段階によっては評価指標への丸印の付け方と実習評価表に相関がみられたが、 全体では相関がみられなかった 6 評価観点については、各実習段階による評価の差が大きい ものであり、各実習段階に適している評価基準であるか、詳細な検証が必要である。特に、 唯一積み木方式で評価基準の説明をしている評価項目『役割とチームケア』の「6)自己の役 割を自覚して、他の職種と協働できる」は、他の評価指標との説明方法の違いが評価者の混 乱を引き起こした可能性もあることが判明した。

最後に、全体でも各実習段階においても、ルーブリックの評価指標の丸印の付け方と実習評価に相関がみられなかった評価項目『介護過程』の「10)介護計画に沿って実施し、評価ができる」と評価項目『倫理・態度』の「13)礼儀を理解し、マナーを守ることができる」については、その要因として次のことが考えられる。

まず「10)介護計画に沿って実施し、評価ができる」については、実習段階IIと実習段階IIIの実習課題の違いに要因があると考えられる。特に介護実習 II では介護計画の実施が任意であり、計画立案の段階で、実施が可能か数回試行を行うところで、多くは実習終了となっていることが挙げられる。本ルーブリック作成の段階で本観点を含める際、次年度に向けた課題を明確にするためには必要であると判断し実習段階IIを評価対象に含めることとしたが、本研究の結果から、「実習計画を実施した場合のみ評価する」とするなど工夫が必要であることが明らかになった。

次に「13) 礼儀を理解し、マナーを守ることができる」については、評価基準の説明に多くの要素を含んでいることから、矛盾した評価が行われることになったと考えられる。そこで実習評価表の備考欄などを活用して、評価基準では説明しきれていない評価根拠について、特記事項として記入するよう評価者に協力などを求める工夫が必要であることが示された。

#### 7. 結論と今後の課題

本研究では、「介護実習I、II、III」に対して「介護実習評価指標(案)第2版」による評価と「実習評価表」との間に、部分的に相関関係が認められた。このことから限定的ではあるが、本評価指標が実習評価を測定できていることが示された。評価観点によっては、実習段階など個別の誤差が認められたが、本評価指標が実習学生の総体的な能力を測定しているものではなく、実習段階によって異なる取り組み課題や学生の個別的な達成度を測定できていることを示す結果ともいえる。従って、施設種別や施設の場所、及び実習段階が異なる実習学生の間でも一つの評価指標で評価が可能であることが実証されたことから、引き続きデータの蓄積を行い、検証していきたい。

今後の課題として、まず実習評価者への説明の強化が挙げられる。なぜなら、一部の評価 観点で矛盾や混乱が起こっていることも判明し、単に実習評価者にルーブリックを提示し、 評価を委ねることだけでは難しいことも意味しているである。故に、介護実習が複数の施設、 種別で行われることを踏まえれば、ルーブリック評価導入に際し、実習評価者に対して事前 理解を深める機会や、評価前に質問などを受け付けることができるような工夫などについて も検討していく必要があろう。

次に、ルーブリック評価指標そのものもより精緻なものに改良していく必要がある。まずは「具体化方式」「ステップ方式」「積み木方式」といった、異なる評価基準の説明方法が混乱を招いた恐れがあることが判明した。開発にあたっては、生活支援技術などは具体的な技術の羅列をおこない、一般的なマナーなどについては階段方式の表記が適していると判断し、異なる説明方法を用いることにした。しかし今後は説明方法を統一することや、補足説明を加えるなど、混乱を少なくする方法の検討が必要であると考える。

さらに、今回の検証の結果、実習段階によって取り組まなかった内容が介護実習評価に影響することも明らかになった。先に述べた通り、介護実習は実習施設の特徴や利用者の状況、実習学生の生活経験や学習状況に、その学習内容も大きく影響を受ける。したがって一部体験的に実習課題以外を一部実施することも見込み、これらについては、「該当せず」「実施せず」を明記できるような項目の追加や、「実施した場合のみ評価する」など提示する工夫することを検討したい。このほか実習評価期間に実習評価者から、スペースが狭く印を付けづらいとの指摘もあった。上記の課題克服のために、引き続き研究を継続し本評価指標の知見を蓄積していき、介護実習教育の評価基準を見直すための基礎的情報を得ていきたい。

# 【参考文献】

- 江原隆宜,村田泰弘 (2014)「相談援助実習の「実習評価」に関する批判的考察:「実習評価」の目的、対象、主体・方法」日本福祉大学社会福祉論集 (131), 55-73.
- 福田明,栗栖照雄,渡邊一平,横山奈緒枝(2018)「介護実習指導者の「自信のなさ」に関する要因と改善に向けた課題の研究—面接調査結果のテキストマイニングによる分析を通して—」最新社会福祉学研究,第13号,p1-13.
- 原田奈津子,高島恭子,浦秀美 (2010)「福祉分野における現場実習に関する現状と課題―実習生、養成校、及び実習先(施設・機関)の実習担当職員、利用者間での連携―」長崎国際大学論叢,第10巻 2010年3月p187-196.
- 林和歌子,大内善広(2017)「ルーブリックを用いた介護実習評価法の開発」城西国際大学紀要,第 26 巻第 3 号,福祉総合学部 p37-50.
- 小松一子, 川野素子 (2008)「福祉介護コース学生のアイデンティティと自己効力感:職業選択と実習による社会経験との関係」花園大学社会福祉学部研究紀要,第16号 p1-9
- 小松智子,内田若希(2016)「福祉職への就職意思に影響を与える要因の質的検討 相談援助実習を終了した大学生へのインタビュー調査を通して」日本保健福祉学会誌,23 巻 1 号 p1-13.
- 工藤雄行、山口かおる(2015)「本学における介護実習評価の特徴と課題:実習施設評価と学生自己評

価の比較を通して」弘前医療福祉大学短期大学部紀要 3(1),p95-102.

佐藤亜樹(2018)「社会福祉相談援助実習が学生の共感性(Dispositional Empathy)に与える影響に関する予備的研究」松山大学論集,第 30 巻第 3 号 p155-181.

米沢崇 (2008)「」

占部尊士,村岡則子,森永佳江,大原朋子 (2012)「介護福祉実習における実習生への心理的変化に関する研究」長崎ウエスレヤン大学現代社会学部紀要,10巻1号p71-78.

Implementation and validity examination of a rubric for evaluating student skills necessary for conclusion of care work practice education

Wakako Hayashi

Abstract

This research examined whether the rubric to assess the student skills required to complete all carework practicum education for the first 3 years of university could rationally measure the performance. This research confirmed the relationship between 36 students' evaluation of care-work practicum conducted in 2018 and the rubric evaluation marked by the same evaluator. The results revealed that the correlation between the evaluation of care-work practicum and the rubric evaluation marked by the same evaluator was a positive correlation in several items. Therefore, this rubric showed to be useful in measuring the skills needed to complete all care-work practicum education.

Key words: care-work practicum, performance evaluation, rubric